

第2回 都心活性化プランに関する懇談会 議事要旨

1 懇談会名称

都心活性化プランに関する懇談会

2 開催日時

平成27年12月2日（水）午前10時～午前12時

3 開催場所

NTTクレドビル11階 ラウンジ

4 出席者

(1) 委員

委員11名中全員出席 代理出席2名

（下村委員の代理として、金座街商店街振興組合 若狭 副理事長が出席）

（谷村委員の代理として、広島商工会議所 下平 地域振興担当部長が出席）

(2) 事務局

広島県：地域政策局長、地域振興部長、都市圏魅力づくり推進課長、担当職員

広島市：都市整備局長、都市機能調整部長、都市機能調整担当課長、担当職員

5 議事

都心の現状と活性化の視点等について

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴人の人数

一般傍聴者4名 報道関係者1社

8 懇談会資料名

次第

資料1 都心のまちづくり年表

資料2 都心の現状と活性化の視点等について

参考資料1 都心の現状について

参考資料2 4都市比較及び他都市の事例

9 各出席者の発言の要旨

議事

都心の現状と活性化の視点等について

【塚本座長】

- ・ 前は「都心活性化プランについて」ということで、最初の総論、議論を始めるにあたっての思いや疑問をお話していただいた。
- ・ 本日は「都心の現状と活性化の視点等について」が議題となっている。
- ・ 平成 27 年度から平成 28 年度にかけて、2 ヶ年で計画を策定していく中で、今年度は都心の目指す姿や将来像について、いろいろな視点からご意見をいただいております、それを踏まえて方針を示していくこととされている。
- ・ 前回懇談会でのご意見を踏まえ事務局で資料を整理してもらっている。これをベースに色々なご意見、活発な議論を進めていきたい。
- ・ 資料 1「都心のまちづくり年表」について事務局より説明をお願いしたい。

【事務局】

— 資料 1 に沿って説明 —

【塚本座長】

- ・ 前回の話を踏まえ、広島市がこれまでどのような都心を形成し、魅力づくりを進めてきたのか、今、どのような時期にあるのかということを分からないまま議論していくことが、非常に問題ではないかという思いがあったので、この資料を事務局に作成していただいた。
- ・ 資料について、事務局の説明に少し補足をさせていただく。
- ・ 政令指定都市への移行の前後で大きな転換点があると思っている。
- ・ それまで、復興ということでものづくりをしていた時期だったが、この時期あたりで都市美計画が策定され、都心の魅力づくりがはじまっている。
- ・ その後、水の都構想、河岸緑地の整備、マンションの給水塔がなくなるといった日本の中でも先進的な景観行政に、この時期からいち早く取り組まれ、先ほど上から見たような美しい街並みができてきた。
- ・ もうひとつ、観光交流の中にあるが、1986 年に、日本文化デザイン会議が開催された。これは広島の文化シーンの中で画期的なことだと思うが、このような形で世界の方々が文化という点で広島に集まるということが大々的に起こっており、どこまで広がっているかは分からないが、この時期からずっと積み重ねてきている。アニメーションフェスティバルもこの辺りからである。
- ・ 広島アジア競技大会を契機として広島の都市機能が強化されたことが資料を見ると分かるが、エディオンスタジアムができ、アストラムラインが開通し、この時期に都市の構造が大きく変わった。

- ・ その後、様々なことがなされてきたが、2010 年頃から、マツダスタジアムが完成したり、広島南道路が開通したり、今まで懸案となっていたプロジェクトが実現化し、広島駅前の B ブロック、C ブロックなどが、この 5 年間くらいで実現の時期を迎えた。
- ・ このように平面的にだけでなく、時系列で見ていくと、いろいろな段階を踏まえて、広島の都市機能がこういう時期に来ているということを基本情報として認識していただくと良いのかなと思う。
- ・ これを踏まえて今の課題として何が見えてくるかといったことが、今回の懇談会で議論して頂く趣旨、テーマであると思ったので、補足をさせていただいた。
- ・ 今の年表についてご質問等があれば時間をとりたい。

【山田委員】

- ・ 質問ではないが、これまでの時系列的な経緯が非常によく整理されていて分かりやすい。
- ・ 今までの都市機能がどのように整備されてきたかを知るとともに、できれば、一番右に書いている整備中の取組があるが、これから 30 年という長いスパンで楕円形を考えていく中で、これらの事業が整備されるとどのような成果が期待されるかといったことも見えるように整理いただけると考えやすくなると思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。他に質問があるか。

【藤波委員】

- ・ 質問であるが、居住ということで見ていくと、基町地区の話や都心コア住居地区の地区計画など、広島市ではかなり早い時期から都心居住にかなり力を入れてきたということでよいか。

【事務局】

- ・ その通りである。最初に既成市街地の再開発方針を策定したのが、昭和 62 年であるが、その頃から街なかの居住を位置付けている。次に既成市街地の再開発方針を見直したのが平成 7 年であるが、その時にも同様の方針で位置付けている。
- ・ それらに合わせて、広島市都心住居地域地区計画や都心コア住居地区の地区計画を定めている。都心コア住居地区の地区計画では、幹線道路の一つ入ったところで、そうした住宅を誘導するといった取組を行っている。

【塚本座長】

- ・ 付け加えて言うと、リバーフロント住宅ということで、河岸に質の高い住宅を誘導しているということもこの時期からされている。
- ・ その他にご質問があるか。

【野原委員】

- ・ コメントを 2 点させていただく。
- ・ まずは、座長から、まちづくり年表を見ながら都心の課題を導き出していこうといった説明があったが、同時に強みについて、これから人口減少時代になると、なんでもかんでもできるわけではないので、どこに力をいれていくかを絞って、しっかり見えてくる整理ができるようになってくると良いと思う。
- ・ 例えば川、水の都のまちづくりなどは全国的に見ても先進的なまちづくりと思うが、まさに戦災復興の河岸緑地から始まり、環境・景観の京橋川の河岸緑地、リバーフロントの建築の質を高めるというようなことにつながって、今度は、観光・交流に書かれているオープンカフェのような取り組みにつながっている。
- ・ オープンカフェの取組は、まちづくり業界からしたら非常に先進的であり、この時期にこうしたことを始めたのは日本全国でも先駆けであり、これを真似て日本全国でこうした場所の活用に取り組んでいる。
- ・ こうしたところから、一番右の美しい川づくりに繋がっている。このように斜めに横断的に見てみると、非常に魅力的なものが散りばめられている可能性があるので、こういったところをうまく導き出せる年表ができれば良い。
- ・ もう 1 点は、行政が実施しているプロジェクトと、民間の方が実施していることが中に含まれていると思うが、ここを上手く整理して、さらに市民・団体の動きとしてどういったことがされてきたかを、付け加えて整理すると、都心のまちづくり年表として非常に厚みがあり、多角的な視点から物事が見える。
- ・ この年表をどのように読み込むかによって、次の時代につながる広島のこれからを考えていく上で非常に有効な資料になるのではないと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。その他に質問等があるか。

【下村委員（代理 若狭副理事長）】

- ・ こちらの年表を見させていただくと、出来たものは書いてあるが、無くなったものが書いていない。
- ・ 広島には都心から無くなったものがある。広島大学や広島西飛行場である。
- ・ あの頃の広島は拡大路線ということで走っていたのだが、大学が移転したことによりどのようなものだろうと思う。今はコンパクトシティに取り組まれているが、広島市はどちらの方向に向かっているのだろうかといったことも、年表から分かるのではないと思う。
- ・ アジア大会の時期にいろいろな施設が整備されたが、年表に記載されたもののほか、広島市の商店街では、カラー舗装とアーケードを一斉に整備しており、その頃整備したものが、現在では 20 年経って老朽化している。
- ・ 私の金座街では既に改修しているが、他の商店街では、今から少しずつ改修していかなければならない時期に来ている。
- ・ 体力のある商店街では改修を進めていくことができるが、そうでない商店街では、お金を出

せないという問題がある。今からどうなっていくのか心配である。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。事務局より次の資料の説明をしていただきたい。

【事務局】

— 資料 2、参考資料 1、参考資料 2 に沿って説明 —

【塚本座長】

- ・ 都心の現状と、今どういった課題があるかについて、前回の懇談会でのご意見を踏まえ、丁寧に整理をしてもらったと思う。
- ・ これからの進め方であるが、「都心活性化の視点とキーワード」について、皆さんのご意見をいただきたい。
- ・ まず資料 2 の現状分析の視点、課題等について、ご意見・質問等があるか。

【事務局（広島市 宮原局長）】

- ・ 事務局として、私から少しお願いをさせていただきたい。
- ・ 活性化に向けた視点、切り口としての項目で、これは大切だけれども抜け落ちているのではないかとあったことがあればご意見をいただきたい。
- ・ 現状分析の視点では、それぞれの項目についてこういった課題があるのではないかと頭の中で想定し、集められるデータを元に、現状を整理した。
- ・ また「国内外から人を呼び込む」といった都心活性化の視点と、6 つのキーワードをお示した。
- ・ 先週の日曜日のイベント「都心のまちづくり“ひろしまワールドカフェ”」において、様々なご意見を市民や有識者の皆様からいただいたが、現状分析に当たっては、広島市として、広島に住んでいる方としての視点に加えて、別の視点も必要であると思う。
- ・ 2015 年が広島市の人口のピークで、以降は人口が徐々に減少していくことが推計されているとともに、高齢化も同時に進展していく。こうした状況下では、広島市や周辺市町だけでなく、中四国エリアを視野に置いて考える必要がある。
- ・ 「人を呼び込む」というのは、人が移動して広島に来ていただくことを考えているが、そうした方々が広島市、特に中心部がどういった都市になって欲しいか、どのような魅力を持って欲しいかという視点について、いろいろな思いがあるのではないかと考えている。
- ・ そうした外から見るという視点について、どのように設定すれば良いのか事務局の中で十分に検討できていないこともあり、そうした点についてもご意見・ご検討いただきたい。

【塚本座長】

- ・ ここに挙げられているキーワードは、どれもなくてはならないものではないかと思うが、広

島の都心の今後30年を、懇談会の中で考えていくにあたっては、「広島らしさ」をきちんと出していかなければならないという話もあった。

- ・ 広島としてどのようなことに重点を置いていくべきか、先ほどの他都市の事例においても、クリアな方向性を出しているのを見ると、どこをポイントとしていくかといった話でよろしいか。

【事務局（広島市 宮原局長）】

- ・ 広島に来ていただいている方が、どのような都市になって欲しいのかということは、中からだと分かりにくいところがある。そうした視点を大事にしていければといったことである。

【塚本座長】

- ・ それぞれ、今の話について、各委員から一言ずつご意見をいただきたい。

【伊藤委員】

- ・ 参考資料1の9ページの交通の現状分析において、代表交通手段の分担率を記載してあるが、これは、「都心に来られる方がどのような交通を利用して来訪しているか」といったことを見るための分析ということではよろしいか。

【事務局】

- ・ そのとおりである。

【伊藤委員】

- ・ 分担率をみると、全市域からの車の利用は少ないということで、車のことを心配する必要はないように見えるが、実はそうではないと直感的に思っている。
- ・ 例えば、都心に駐車場が増えてくると、都心は活性化しなくなり、衰退の方向に向っていくと思っている。
- ・ 広島はそこまでのレベルではないが、地方都市に行くと、街なかは空地と駐車場だらけで閑散としている。
- ・ 広島でそのような兆しがないかということで、街なかを歩いてみると、結構コインパーキングは多いかなといった印象もある。
- ・ そうした駐車場といった視点で現状把握をしていくのもよいのではないかと思う。
- ・ 駐車場といった視点で言えば、商業施設の立地条件で必ず、これだけは駐車場を用意しなさいという決まりがあり、商業施設を立地すると駐車場が増える、商業施設と駐車場の立地がセットになっているのが問題ではないかと思っている。
- ・ エリア全体としてある程度駐車場が確保されているのであれば、無理に駐車場を増やして立地させなくてもいいと思う。
- ・ まずは駐車場の状況を把握し、将来的には車の流入を制限する、利用をコントロールするような政策とリンクさせていくことが必要となってくるのではないかと思う。

【小谷委員】

- ・ 広島都心は朝昼夜、ウィークデイ、土日と都心に来られる方の層が違い、まちの雰囲気も朝と夜で違う。
- ・ 都心の活性化を考える上では、来られる方の趣味を対象としていくのか、それとも観光客を対象にしているのか、あるいはビジネス客を対象にしていくのか、そこによって広島市の活性化が変わってくるのではないかなと思う。
- ・ 地域の開発ということだと、コンパクトに色々なものをまとめるのが必要であると個人的には思う。
- ・ 市内の全域を見ても、いろいろな商業施設が散らばっている、消費者は便利だけど本当にそれでいいのかなと思ってしまう。都心を活性化しようと思うとコンパクト的な動きが必要となる。
- ・ さらにターゲットをどうしたらよいか、そうしたご意見が皆さんから出ることによって活発に議論ができればよいと思う。

【佐藤委員】

- ・ 年表から、これまでにどのように取り組んでいるのかが分った。
- ・ 成果として人が集う街になるにはと考えていたら、確かに駐車場が少ないほうが良いが、女性や子育て世代が街に出るには車を利用するケースがある。
- ・ 市の中心地は駐車場の料金が高いので、滞在時間が4～5時間程度になってしまう。
- ・ 何をどこで利用すれば駐車場の料金が減るのかという話題が女性たちに出ているので、そうしたことも踏まえ、電車等の交通機関では、もう少しベビーカーの乗り入れを優遇してあげるとか、子育て世代や多くの人に、どんどん街に集っておいでという場面を見せていただければと思う。
- ・ 取組としては、女性30人ぐらいに意見を聞いたときに「川がある街、広島はすごく誇れるんじゃないですか」という回答が多かった。しかしながら、その割には集えるイベントが少ないという声もある。
- ・ 西区のほうに会社を持っているが、結構周りの女性たちに小商いや作家さんなどの小さい起業家さん、プチカリスマがすごく増えている。
- ・ そうした方たちが何か活動したいなと思うときに街なかで場所を借りて、イベントを仕掛けようと思うときに、駐車場のこともあり、中心部は少しハードルが高いと思う。
- ・ 八丁堀や、ちょっと外れた幟町、裏袋でイベントを行う、そうした時には、少し行ってみようかなという機会は多いと思う。
- ・ 先日のワールドカフェにも参加したが、そこで出てきた意見として、公園を街のリビングにしてほしいという意見があった。
- ・ 先ほど、リーガロイヤルホテルの32階から街を見ていたら、すごく広い公園があるのだけれども、毎日、平日に市民がそこに集う、行き交う場面があるかと言われたらあまりない。
- ・ パリやニューヨークでは、公園自体がリビング化されていて、素敵なシーンが思い浮かぶ。
- ・ 女性が共感できて、協働して小さなイベントを行うに当たり、オープンスペースの貸出し等

の条件も少し緩くしていただければ使いやすいと思う。個人や民間の企業が借りるには、少しハードルが高すぎると感じている。また、何か事を仕掛けるときに、どこの窓口にどうすればいいのかわからないので、中心地でイベント等の事を起こすのは難しそうな気がする。

- ・ イベントをしたい人はたくさんいる。そうした女性たちのネットワークをさらに繋ぎ合わせていけば人が集う。
- ・ 資料を見て、まず市民が集わないと観光客もそれを見に来たいと思わないと実感した。
- ・ 倉敷の商店街で三斎市というのを実施されていた。広島でいう本通のような両側にお店がある商店街の真ん中に市を出している。そうした工夫だけで歩くのが楽しくなり、商店街の店にも寄れる。
- ・ 活性化ということで、まず市民が集う場所といったところから掘り下げてみてはどうかと思う。

【塚本座長】

- ・ ターゲットというところで、女性が大切であるということと、どのようなところで都心を使いやすくするかという話である。
- ・ 若い方も含めて、様々な形で活躍できる都市にしていくということは必要である。

【下村委員（代理 若狭副理事長）】

- ・ 本日、私は広島市商店街連合会、下村委員の代理と言うことで来ているが、私の立場としては、参考資料 1 の 12 ページ「地域のまちづくり」の活動エリアの左下にある広島市中央部商店街振興組合連合会で専務理事をしている。
- ・ また、駅と中心部を 1 番広くカバーしている左の 1 番上に記載されている、セトラひろしまといった NPO の代表をしている。
- ・ 駅周辺と中心部を結ぶといったことをやらなければいけない立場にいることもあり、言いたいこと、やりたい事はたくさんあるが、時間の都合上仕方ない。
- ・ 先ほど、佐藤委員の意見もあり、ご意見を受けていきたいのだが、この資料の中でイベントを通したまちづくりに関する項目が抜け落ちているのではないか。
- ・ 商店街では、広島市三大祭りと言うことで「えべっさん」と「とうかさん」を担当させてやらせていただいている。
- ・ 現状では、フラワーフェスティバルには携わらせていただいているが、今行われているライトアップイルミネーション（ドリミネーション）は、市と一緒にやらせていただいている。
- ・ 観光客、その他の人を誘致する上でお祭りは重要であると思うので、このあたりについても他都市の例を含めてちょっと見せていただければと思う。
- ・ 例えば長崎市などでは、イベント中心のまちづくりを進めていて、商店街などでも何かをやっている。そうした事例は多々あると思う。
- ・ ただし、先ほど佐藤委員が言われたようなイベントをやるのは都心では、難しい話である。私どもの所には、アリスガーデンがあり、セトラでも月に 1 度はイベントをやっており、前

回のイベントでは、先ほど言われたようなカリスマの方に来ていただいている。アリスガーデンは使いやすいので、是非使っていただきたいと思う。

- ・ 最近、旧市民球場跡地で大きなイベントをやっている。あそこが使いにくいのはインフラ整備が全くされていないこと。
- ・ 市民球場跡地でイベントをやろうと思うと、電気・水道・ガスなどを全部自前で整備しないといけない。場所の賃料は無料であるが、イベントをやろうと思うと、何百万、何千万といったお金がかかるので市民が使おうと思ってもなかなか使えない現状がある。是非、市民が使えるような使い方ができるようにとずっと思っている。
- ・ 交通問題や、子育ての事など、言いたいことは山ほどあるが、このぐらいにしておきたい。

【谷村委員（代理 下平地域振興担当部長）】

- ・ 商工会議所には、都市問題を担当する都市機能強化委員会があり、そこでは、参考資料にあるような大都市比較を行っている。
- ・ 定点観測として、札幌、仙台、福岡といった都市によく行っているが、こうした都市の都市機能は、やはり素晴らしいと思う。
- ・ 特に 4 都市比較のグラフでは、福岡が突出しているが、都心の駅から国際空港までの近さであったり、国際会議の開催件数、外国人訪問率など全部が連動しており、非常に都市の意思が見えるといった話がある。
- ・ 広島は、この資料にあるように学術研究機関の事業所数や、ホテル・旅館の宿泊客室数、国際会議の開催件数、学生数などが低い、大学進学率の高いのに学生数は少ないといった矛盾もある。
- ・ こうした弱点を平均までもっていくのも一つの方法ではあるが、そうしたことをすると、また広島は周回遅れというか、特徴がないといったことになると思う。
- ・ まずは都市の利点を活かし、都市の意思が現れるような方面を伸ばしていくのが 1 番かなとは思っており、商工会議所としては、やはり川を生かした観光交流とか、居住、環境景観の方で広島市の特徴を伸ばし、伸ばしたものを展開していくべきだといった考え方である。

【野田委員】

- ・ 交通の件については、先ほど伊藤委員や佐藤委員が言われたことに私も完全に同意なのでよろしくをお願いしたいと思う。
- ・ 居住の関係の話であるが、参考資料 1 の 8 ページに空き家率があるが、現状として、空き家率がかなり高くなっており、その中でも 8 割は賃貸住宅だといった説明があったと思う。
- ・ 一方で、参考資料 1 の 11 ページを見ると、建築年数や木造建物の割合があり、これはあくまで建築物なので必ずしも住宅用途かどうかは分からないが、その辺についても、もう少し掘り下げることができるとありがたい。
- ・ 建築物の建築年数が古いことは必ずしも問題ではなく、一般的には、ヨーロッパに行けば 100 年 200 年といった住宅や建物を現役で使っているが、古い建築物には、耐震基準の問題や、木造住宅ということになれば火災の問題があり、かつ住宅市場の中においては、こうした物

件は多分人気が無いという事は容易に想像できる。

- ・ 新しいマンションが建つのも、もちろん良いことではあるが、活用できるものはうまく活用して都心居住をさらに進めていく、逆に本当に危険なものは、リニューアルや除却を進めていくといった両方の道があって、峻別していかなければいけないと思う。
- ・ 指摘であるが、参考資料 1 の 6 ページの宿泊率が上昇していますということだが、これは統計上のマジックというか、安易に鵜呑みにして信用してもいいのかという疑問がある。
- ・ 宿泊の分母、分子である入り込み観光客数と宿泊客数は、それぞれ統計の取り方が違うはず。要するに、ビジネスで来てビジネスホテルに 1 泊して帰るというのも宿泊客数カウントされる一方で、入り込み観光客数と言うのは、初めから広島市に住んでいる子どもたちがこども文化科学館を利用すればカウントされる。
- ・ 単純な割り算ではなく、分母と分子が合っていない。それを単純に宿泊率ということは、少し危険だと思う。

【野原委員】

- ・ 大きく分けると 3 点ほど、コメントがある。
- ・ 資料 2 に活性化の視点ということで「国内外から人を呼び込む」とある。これはこれで重要で、キーワードもどれも重要ではあるが、「人を呼び込みたい」というのは、どこの都市についても当然のことであるため、あまり意味のある言葉（コンセプト）となっていない。
- ・ 大切なのは、やはりどんな人を呼び込んで、どんな人にコミットしていくのかを具体的に考えていくことである。
- ・ 例えば、参考資料 1 の 7 ページに、歩行者の密度が記載されているが、青い点線の場所の密度が低くなっており、ここを結ぶ必要があるとなっている。
- ・ 一方で、参考資料 1 の 1 ページ目の街区の特性を見ると、「この辺りは住宅地です」といった話があり、同じ指標で比較すれば、この場所の密度が下がっているのは当然のことである。
- ・ つまり、街なかに居住者も含めた新たな層を呼び込むのが目的なのか、この密度が低い場所に人を通らせることが目的なのかということによってだいぶ意味が変わってくると思う。
- ・ 一方で、逆の読み方をするとすれば、こうした場所にお住まいの方々がなかなか街なかに出るきっかけがあるような街になっていないという事も読み取れるかもしれない。
- ・ まさに、先ほど子育て世代のお話もあったが、子育て層が安心してまちなかに出て動けるようになっているかということと、逆に、高齢者の方が街なかに出て活動しやすい環境ができているのかといったことで、そこには課題があるかもしれないし、可能性もあるのかもしれない。
- ・ そうしたことを含め、様々なデータがある中で、どのような人たちにコミットしていくのかということを今後は情報を詰めながら見ていただけると、具体的で良い計画になっていくのではないと思う。これが 1 点目。
- ・ 2 点目は、これに近い話ではあるが、いろいろなデータをお示ししていただいているが、データの量だけでなく、データの質、現在どのような状態になっているのかといったことも同時に見ていく必要があると思う。

- ・ 例として言えば、先ほど佐藤委員からのお話もあったが、我々も今日、9時30分から、リーガロイヤルホテルの32階から市内を見学させていただき、この周辺には、オープンスペースが、豊かな緑を含めてたくさんあるにもかかわらず、使える状況にないという話である。
- ・ 私などは、この都心部には、NYのセントラルパーク並みにたくさん緑があるなと思ったが、セントラルパークは市民がそこに集い、様々な活動ができる場所になっている。なので、単に、公園面積が増えましたといった話ではないと思う。そこが使いやすい空間になっているかといったことが重要である。
- ・ 品川には、浄水場の上部を活用して、高層棟開発とセットで芝生広場にした場所がある（品川シーズンテラス）。
- ・ その周辺には、高層住宅開発がすごく増加しており、子育て層のお母様方がお昼前になると子どもと一緒にご飯を食べたりするなど、集まってきており、そうした人たちのある種の憩いの場、憩いの空間になっている。
- ・ つまり、どうやってその場所にアクセスしやすい、近づける、かつ、魅力ある空間になっていくかということをぜひ考えていただけると良いかと思う。
- ・ 観光についても、例えば、様々なデータがあるが、私は飛騨・高山のまちづくりに参加させていただいているが、飛騨・高山は、ミシュランガイドに載っていて、ここ10年、ヨーロッパからなどの外国人観光客がすごく多くなってきている。
- ・ 高山は中世末期から近世にできた城下町で、多くのお寺の集まる寺町があるのだが、そうした場所には日本人はあまりおらず、（特に欧米系の）外国人の方が多い。
- ・ 結局、受け入れる側が、その地域の魅力がどのようなものかということ具体的に分かっていないと、なかなか魅力を伝えられない。
- ・ 飛騨・高山のように、ヨーロッパの方が鋭く見て訪れてくださることもあるが、その辺を受け入れる側がどう理解するかということ踏まえ、質を高めていくということを考えなければ、上辺だけのものになって、持続しないのではないかと思いますので、そこを含めた質といったことも考えていければよいと思う。
- ・ 最後に3点目であるが、このような取組を具体的にどのような方法で、どのようなアイデアで実現していくかといったことを同時に考えていかなければならないと思っている。
- ・ 例えば、広島というと、戦災復興等を経て、道路率がとても高い市街地であるように直感的に思う。本当かどうかは分からないが。
- ・ 先程の交通量の話もあったが、仮に自動車交通量が減ってきてつつあるのであれば、そうした所をうまく歩行者や生活者、来街者のための空間として使うことができないだろうか考える。なかなか難しい話になるのかもしれないが。
- ・ このような空間の再編を具体的に考えることで、余地のある場所をどこに作っていくか、魅力的なにぎわいとうるおいの場にどうやってしていけるのかということも見えてくる。
- ・ また、オフィスに関する分析資料を見ると、空室率がそれほどに高くない一方で、新規供給がないという話になると、サプライサイド（供給側）に課題がある可能性がある。そうしたところは、先ほどの議論にもあったが、使えるものは使っていくといった視点で考えていく時には、どういった方策が考えられるのかということ。

- ・ 最近流行っているリノベーションといったことも一緒に考えていくと、より魅力的な供給の仕方などにつながっていくのではないかとということもある。
- ・ 先ほど、プチカリスマのお話もあったが、そうした、新たなベンチャーマインドを有する可能性のある人たちにとって使いやすい場所をどれほど作っていけるのかということのも、1つの起爆剤になるのではないかなと思う。
- ・ こうした、具体的な方法論と合わせた取組の視点が見えてくると、広島ならではの魅力的な都心のあり方ができてくるのではないかなと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。今の話ですが、私が飛騨・高山に行った時に、観光客が入る場所には、中国人が多かったのだけれども、お寺のほうは逆に欧米系が多いといったことか。

【野原委員】

- ・ 時代的なこともあるが、最近ではアジア系が増えていて、東日本大震災以降、一時期はだいぶ減ったが、今は回復しており、前は非常にヨーロッパ系が多かった。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。では平尾委員。

【平尾委員】

- ・ 私も質問ではなくコメントであるが、まずは、札幌・広島・福岡の比較の中で、広島市は人が集まる活性化というわりに、ホテルの客室数や国際会議の件数や、大学生の学生数などがワーストであるということであるが、本当にここを目指してもよいものか。
- ・ 弱点を強みにするほど難しい事はないので、これが本当にキーワードでいいのかということを感じた。
- ・ 2つ目は、資料2にある中で6つのキーワードとして、働きやすいや、楽しめるなどが挙げられており、どれも大切であるといったことではあるが、どれかを上げていこうとすると、どれかが犠牲になる。ある意味競合的な事ではあると思うので、ある程度、優先順位をつけていかなければ、誰にも響かないといったことが良く起きる。
- ・ 行政としては、何かを選ぶということは難しいと思うが、何か一つは市として見えていくものを考えていく時には、何が一番上にくるのかということ意識していく必要があるのではと思う。
- ・ 3つ目については、野原委員からも、自分たちが「何がブランドであるか、何が魅力か」を知っていくというお話があったが、外から見た魅力についても大切ではあるが、インナーブランドというか、私たち自身が何を誇っていくのかといったこともしっかりと固めていかないと、平和都市と思ってきてみたけれども、それほど平和都市として感じられる場所がなかったねということに陥ってしまう。
- ・ 双方で関連していることではあるのだが、私たち、中の人たちが何を誇っていくべきかとい

うことをしっかりと意識をしていく必要があると思う。

- ・ 最後にもう一つ。先週のワールドカフェで、私も仕切らせていただいたのだが、やはり都心の活性化全体をテーマとするとあまりにも大きすぎる。
- ・ 全体で 26 テーブルがあったのだが、それぞれがバラバラの話をされていて、詰めていく中で、もしワールドカフェの中で、まちづくりの主体となっていく人を生んでいこうとか、何かコミットする人を生もうとするとなると、ある程度ターゲットを絞って、何をしないといけないかを示していかないと、小林先生がおっしゃっていたような市民の中から主体となっていく人を育てることにはつながらないと思う。
- ・ あのような場所をつくるのであれば、明確な方向性とプロセスを大事にしていくことが必要ではないかと思う。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 後ほど説明があるが、11月29日の日曜日にワールドカフェがあり、約100の方が2時間程度、素晴らしいお話をされていた。
- ・ その中で、オランダの方が最後に話をされていたが、話すのは良いが、何のために話をするのかといった発言があった。
- ・ そうしたこともあり、きちんと整理して進めていきたい、それがこの懇談会の一つの役割ではないかと思う。
- ・ 次は、藤波委員のお話であるが、実は話題提供ということで資料を作っている。
- ・ 簡単にご紹介をいただいた上で、ご説明いただければと思う。

【藤波委員】

- ・ 私の方からですが、先ほど資料2のキーワードについて、全てできれば世界で1番の都市になると思うが、これを全部揃えていくという事は難しいと思う。
- ・ 特に私は、住む、住んでいる人口ということを中心に考えていきたいと思っている。
- ・ 現在の日本全体でこれから人口減少に入っていて、多くの人口が都市に偏っていくと思う。
- ・ その話を含めて、広島の実状についてお話しさせていただきたいと思う。

— 藤波委員がスライドにより説明 —

以下要点

- ▼：広島市の転出入は、ほぼゼロに近い状態で推移しており、わずかに転入超過。
- ▼：20歳代前半の方に着目すると、すでに日本全体では団塊の世代の6割強しかいない。団塊ジュニアの世代からみても、平均で6割ぐらいであり。このような状況で、これから日本全国の人口が減っていく。
- ▼：20歳代前半の方の割合は、広島の郡部で大幅に少なく、広島市はほぼ全国の平均並みである。

- ▼：人口流出が一番激しい県である秋田県と島根県あたりでも、流出はしているが、県庁所在地である秋田市や松江市には、ある程度人口が集まっており、松江でも、全国平均に近い水準の若い人たちがいる。
 - ▼：大都市に人口が流入している印象があるが東京一極集中ということには抵抗がある。東京にも人口は流入しているが、人口流入が大きいのは、実は、地方の大きな都市である。
 - ▼：広島市の人口吸引力は、あまり強くないのではないかと思う。(特に若い世代、学生など)、ある程度、若い人がいないとそのあとの定着は滞ってしまう可能性がある。そのため、ある程度の若い人たちの集積が必要である。
 - ▼：他の地方都市では、中心市街地の空洞化、人口の郊外化が問題となっているが、広島市は都心の周辺（外延部）で人口が増加しており、ドーナツ化は見られない、全国的にも珍しい都市である。
- ・ 広島市では、地方からの人口吸引力は、他の都市と比較して弱い。
 - ・ 一方で、他の地方都市とは異なり、中心市街地ではドーナツ化が起こっていない。こういった利点を活かしていけたらと思う。

【山田委員】

- ・ 2点コメントをさせて頂きたい。
- ・ 1点目は佐藤委員も言われたが、資料2の国内外から人を呼び込むということだけを見ると、外からだけ人を呼び込むという印象が非常に強い。
- ・ 「住んでよし、訪れてよし」といった言葉があるが、もう少し生活者の視点から活性化を考えるといったことも重要な視点ではないかと思う。
- ・ 先日の日曜日のトークセッションでも、松本さんが言われていたが、「都心には子どもたちと遊ぶ場所がない」といわれた言葉が非常に印象的だった。
- ・ 広島は「水と緑の都市」とよく言われるが、今日も、リーガロイヤルホテル32階から都心を拝見させていただいて、やはりそうだったなと改めて思った。
- ・ しかしながら、私も街なかに住んでいるが、そのわりには、緑を感じられる場所、憩いの場所がないと思っている。
- ・ 参考資料の2ページの主要施設の分布図を見ると、この中で公園・緑地の分布は、今日、屋上から見てきれいだなと思った場所に集中している。
- ・ 公園緑地が配置されている場所と住民の方たちの憩いの場所が必ずしもマッチしていない。非常に局地的と言うか、河岸緑地は別として、平和公園、広島城、縮景園、比治山公園、そういう場所に、大きな緑が集中している。
- ・ 一方で、本通りや広島駅周辺に緑があるだろうかと探してみるとあまりない。
- ・ そういう意味で、住民、市民、生活者の視点から考えてみると、緑地、水と緑の空間づくりがもう少し身近に感じられるような分布になって欲しいと思う。
- ・ 特に、子育てのしやすさということは、非常に重要な視点であると思っている。
- ・ 私は東京出身であるが、今はどうなっているかはわからないが、代々木公園の一周がサイク

リングコースになっている。

- ・ 小さい頃はお昼をもって、家族でサイクリングに出かけた。サイクリングが終わった後は、代々木公園の周辺には食べるお店もあって、非常に楽しい休日を楽しむことができた。
- ・ 広島には憩いを楽しむ場所はあるが、憩いの場になっていないということが、非常に課題であると思う。
- ・ もうひとつ加えて、生活者の視点からは居住ということだが、環境や景観で子育てしやすさといったお話をしたが、郊外に住んでいたお年寄りの方々が、都心回帰ということで、街なかのマンションに移り住んでくる。
- ・ 元気なうちはいいが、配偶者をなくしたり、健康を害されたりすると、もともと街の中には縁がないので、お年寄り世帯は孤立してくる。
- ・ 「地域コミュニティの参加促進」といったことが書かれているが、これができればいいが、簡単にはできない非常に難しい話である。街なかに住む高齢者の安心・安全といった視点も必要ではないかと思う。
- ・ 2点目は、参考資料1の12ページにある「地域のまちづくり」、広島 of 街なかの変遷を最初に説明していただいたが、これを見ても紙屋町・八丁堀から広島駅周辺に移ってきたということで、分野ごとの色が大きく違うのが分かる。
- ・ 紙屋町・八丁堀では、ある意味では局所的に、それぞれの目的を達成するための個別の協議会や女性会、連合会の取組がなされている。
- ・ それに比べ、最近の広島駅周辺では、エキキタや南口のエリアマネジメント組織など、地域という大きな括りでの取組がされている。
- ・ 今後はこうした組織が出来てくることで、広島 of まちづくりという組織の連携にどのような効果が期待できるのかといったことを整理していきたいと思う。
- ・ 広島駅周辺では南と北で別々の組織が個別に動いているが、近い将来か遠い将来か分からないが、駅周辺ということで、まとまった組織ができてくるかもしれない。
- ・ また、紙屋町・八丁堀の個々の組織がもう少し連携をとって周辺のまちづくりを進め、その後、駅周辺と紙屋町・八丁堀の組織が連携していくことで、楕円形の空白地域をなくすというか、特に市長が言われた西国街道を活用した周遊ルートなどにつながっていくのではないかと感じた。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 補足させて頂くと、日曜日のワールドカフェの前の基調講演で、小林重敬先生がエリアマネジメントについてということで、住民が参加する組織が必要だということを話された。
- ・ 今から住民が参加していくまちづくり、基盤が必要だということ、これは今回の懇談会、この計画の中でも非常に大きなテーマであると思う。
- ・ そういう組織をつくって何かをするということは逆で、必要性があるから組織をつくる、どのような必要性があって、どういう人が関わってくるか、目標があって手段を考えるので、これはもう少し先のテーマであると思う。

- ・ 先ほど、藤波委員のお話の中で「住む」ということがキーワードとしてあったが、あれは広島に対する若い人の求心力がなくなっているのもっと頑張れということか、それよりあまり良くないので期待せずに他の事をもっと頑張れということか。

【藤波委員】

- ・ 街なか居住に力を入れている風土があるのであれば、これからも力を入れていって欲しいということと、賃貸住宅が空いているといった話があったので、比較的若い世代が賃貸住宅には入居するので、そうしたところにも、もう少し目配りをして頂きたいということである。

【塚本座長】

- ・ ありがとうございます。
- ・ 住みやすいということは活用につながる、これだけというわけではなく関連性が非常にあることだが、本日お話をした中で少し整理をしていただきたい。
- ・ 最後にもう一言ある方はおられるか。

【事務局（広島県 竹中局長）】

- ・ 広島県の立場として、人の集積の話もあったが、大きな地方都市としてではなく、拠点として広島市が外から人を引き込んでいく機能がより重要であると考えている。
- ・ ただそれは、観光客や買物に来る人だけの意味でない。もちろん多くの人に住んでいただくことが活力になるが、クリエイティブな物事を面白くしてくれる人たち、そうした人たちに是非来たいと思わせること、ブランディングといったことになるかもしれないが、そうした視点がやはり重要であると思う。
- ・ そうした意味でハードとしてのまちづくりも重要ではあるが、イベントのような企画、面白いと思わせる仕組み、魅力的な街にしていく、そうしたものにしていきたい。
- ・ 大前提は住んでいる人が住みやすい、一時的にどうするかではなく、住みやすく惹きつける、キーワードとしては色々が入っているが、そうしたまちの観点もあわせてご議論いただければと思う。

【塚本座長】

- ・ 今の発言で予定の終了時間になったが、一つ話をさせていただきたいのは、国内外から人を呼び込むといったことだけが目的であればつまらないと思う。
- ・ これを手段として、どんな人か、何のためか、ということで、大きな地方都市としてではなく、広島として差別化を図ることが必要である。
- ・ 広島に多くの人に来ていただくことは良いことであるが、爆買いを目的とした人を呼び込むというだけでは、なにか寂しい話だと思う。
- ・ 広島だから、広島を目指して世界から人を呼び込んでくる動機とか、それほど魅力的な広島となるにはどうしていくべきかをこの懇談会では詰めていく話であると思う。
- ・ そうした意味で、皆さんに何かお話してくださいと言えば、一人 1 時間ぐらいは話していた

だけのテーマだと思うので、こんなに短い時間では足りないと思う。

- ・ 委員の皆様からは魅力的な都心にしていくためにどうしていくべきかといったご意見や、あそここの街には行って見て来たほうが良いよといった情報をメール等でいただくと良い。
- ・ 事務局は意見を前向きにまとめていただいて一つの方向を示して、施策の展開は来年度、本日は都心の目指す姿、将来像が議事であったと思うので、その部分をしっかりとまとめていただきたいと思います。
- ・ 本日の議事は以上である。

その他報告事項

【塚本座長】

- ・ 事務局よりワールドカフェについて説明をお願いします。

【事務局】

- ・ 正式な資料については取りまとめ中なので、速報ということで報告する。
- ・ 11月29日（日）に国際会議場で「都心のまちづくり“ひろしまワールドカフェ” みんなで話そう～だえんの未来～」を開催した。
- ・ 基調講演は、横浜国立大学名誉教授の小林先生より官民連携のまちづくりということで、エリアマネジメントなどについてご講演をいただいた。
- ・ トークセッションとして、野村謙二郎さん、松本裕見子さん、県知事、市長の4名のパネリストによる広島の魅力についてお話をいただくとともに、その後にワールドカフェということで参加者の皆様から色々な意見をいただいた。
- ・ 参加人数については、基調講演とトークセッションは256人、ワールドカフェは111人で、ワールドカフェについては9歳から80歳代まで、幅広い世代に参加いただき、広島の魅力や更に魅力的になるために必要となるものについて活発な意見交換があった。
- ・ 最後に広島の魅力にはこれが最も必要なことを、一人ずつカードに書いていただき、集計して報告させていただく予定であるが、例えば、「川を生かしたまちづくり」であるとか「自転車中心のまちづくり」「わくわくするような都市環境が良い」といった意見があった。
- ・ 当日は、トークセッションのコーディネーターとして山田委員にお世話になるとともに、ワールドカフェのファシリテーターには平尾委員にご協力をいただいた。また、他の委員におかれても、基調講演などに多数ご参加いただいた。この場を借りてお礼させていただく。
- ・ もう1点報告事項がある。本懇談会の座長の職務代行について、開催要綱第4条第3項に基づき、委員の中から座長の職務代理を指名する。
- ・ この度、塚本座長より、委員の中から伊藤委員を職務代理とするようにご指名があったので、報告する。

【事務局】

- ・ 本日は、貴重なご意見をいただきありがとうございました。

- ・ 本日、いただいたご意見等を参考に、事務局で検討を進める。
- ・ また、追加の意見・提案等があれば、12月9日の水曜日までに事務局にご連絡をいただきたい。
- ・ 次回懇談会の開催については2月上旬を予定している。日程については、別途調整させていただきます。
- ・ 以上をもって、第2回懇談会を閉会する。ありがとうございました。